

再 評 価 調 書

NO. 1

事業名	林道事業	事業区間	剣ヶ岳線(坂井市丸岡町山竹田～あわら市牛ノ谷)			
事業目的						
効率的な林業経営の展開や適正な森林管理および森林が有する県土保全、水源かん養等の公益的機能の高度発揮を図るため、広域に及ぶ森林を健全に管理する骨格的林道として整備する。						
全体事業内容						
全体延長 L=23,130m 幅員 W=4.0m～5.0m						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成10年度	-	平成10年度	平成30年度		
事業費(千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		4,911,000	4,435,866	90.3%	475,134	
財 源 内 訳	国 庫	2,422,565	2,196,310	/	226,255	
	県 他	2,488,435	2,239,556		248,879	
費用対効果		1.12 (総費用 83.7億円、総便益 93.3億円)				
事業の進捗状況	H28までの状況	延長 L=19,612m 木材生産量(整備前)200m ³ /年 ⇒ (現在)1,900m ³ /年 ⇒ (将来)5,700m ³ /年				
	H29以降残事業	延長 L=3,518m				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	45.6億円	49.1億円	<ul style="list-style-type: none"> ・労務単価、消費税等の物価変動による増額(135.2百万円) ・工事に伴う建設発生土の処分先変更による増額(105.8百万円) ・想定地質の相違、法面崩落と危険部位の除去に伴う増額(52.9百万円) ・幅員縮小によるコスト縮減が見込まれる区間が想定より短かったことによる増額(55.3百万円) 			
完成予定年度	平成30年度	平成30年度	変更なし			
事業を休止した場合の影響						
<p>利用区域内の半分以上をスギを中心とした人工林が占めており、林道が今後整備されなければ、間伐等適正な森林整備が進まず、間伐材の有効な利用促進が図れなくなる。</p> <p>また、森林整備の遅れは災害発生の原因となる山地荒廃が進むなど、森林の持つ公益的機能が十分に発揮されなくなる。</p>						
備 考						

再 評 価 調 書

NO. 2

事業名	林道事業	事業区間	若狭遠敷線(おおい町名田庄木谷～小浜市下根来)			
事業目的						
効率的な林業経営の展開や適正な森林管理および森林が有する県土保全、水源かん養等の公益的機能の高度発揮を図るため、広域に及ぶ森林を健全に管理する骨格的林道として整備する。						
全体事業内容						
全体延長 L=19,600m 幅員 W=4.0m～5.0m						
事業計画	事業採択年度	用地着手年度	工事着手年度	完成予定年度		
	平成12年度	-	平成13年度	平成33年度		
事業費 (千円)		全体事業費	執行済み額 (H28年度まで)	進捗率 (H28末)	残事業費 (H29以降残額)	備考
予 算 額		5,170,000	3,451,192	66.8%	1,718,808	
財 源 内 訳	国 庫	2,522,589	1,704,072	/	818,517	
	県 他	2,647,411	1,747,120		900,291	
費用対効果		1.22 (総費用 87.4億円、総便益 106.7億円)				
事業の進捗状況	H28までの状況	延長 L=11,654m 木材生産量 (整備前)300m ³ /年 ⇒ (現在)1,400m ³ /年 ⇒ (将来)3,300m ³ /年				
	H29以降残事業	延長 L=7,946m				
前回との比較	前回計画	今回計画	変更となった理由			
全体事業費	51.7億円	51.7億円	変更なし			
完成予定年度	平成30年度	平成33年度	工区を増やし、事業の早期完成を計画していたが、融雪出水による被害が発生したことにより資材搬入路の確保が困難となり、工区体制を見直す必要が生じたため(H30→H33)			
事業を休止した場合の影響						
利用区域内の半分以上をスギを中心とした人工林が占めており、林道が今後整備されなければ、間伐等適正な森林整備が進まず、間伐材の有効な利用促進が図れなくなる。 また、森林整備の遅れは災害発生の原因となる山地荒廃が進むなど、森林の持つ公益的機能が十分に発揮されなくなる。						
備 考						